

平成 28 年度事業計画書

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

社会福祉法人 こぼと会

あおぞら保育園

社会福祉法人こぼと会 あおぞら保育園 28 年度事業計画

「根拠のある保育」ベースに、感覚統合、応用行動療法の研修を深め実践してきたことが結実し、子どもの行動を評価ベースに保育を進めることができるようになってきました。子どもの行動の一つ一つの意味を理解しようとする職員の努力は子どもの喜びにつながり、子どもたちが主体的に行動する現実が各クラスの保育の中に多く現出するようになっていきます。乳児からのつながりが年少児に顕著に表れ始め、特に、この 3 月の早めの進級に際しても、クラスの移動に伴う精神的な不安が強く出ず、新しい環境を喜びに変えて進んで生活に順応しようとする子どもたちの姿に驚きを隠せません。また、2 月の保護者会の出席率もとても高く、保護者の関心の高さも依然高まってきております。こうした結果も普段の保育の結実であり、大いに評価できる部分だと考えています。

さて、昨年より内閣府により社会福祉法人改革についての議論が盛んにおこなわれてきています。現在行われている通常国会参議院議会で最終的に法制が決定しそうですが、大きな論点として、法人本部のガバナンス機能の充実、財政規律、地域貢献といった 3 つの改革案が打ち出されています。

実際にその中に身を置くものとして謙虚に受け止めなくてはならない事柄ではありますが、上記 3 点については以前から実践してきた法人の理念そのものであり、特に運営上意識してきました。上記に掲げた保育の専門性については、それ自体が地域に貢献できる大切な力であり、とはいえ、その力を利用していただくためにも保護者を含めた地域への信頼がとても重要であり、普段の保育の在り方が、すなわち地域貢献への大切な礎になります。職員とも会議を通じて理念を共有し、一つひとつのプロセスをお互いにわかり合いながら進めてきたことがその源になっています。

そういった意味でも、今年度からの方向性は、地域貢献に向けた実践をどう切り開いていくかが大きな課題として考えています。今まで述べてきたように社会福祉改革を良い意味でのきっかけとして、いかに私たちの保育を地域に伝えて行けるか、また、実践について地域の方と共有できるかが大切ポイントにしていきます。

まず、大切な 1 年目を迎えるに当たり“透明化”、つまり見える化の推進を図っていきたいと思います。職員同士、保護者との共有は言うに及ばない事ではありますが、今一度保育の実践の見える化にチャレンジしていきたいと思います。映像、書式を使った誰にでもわかるように伝えられる方法を職員と共に編み出していきたいと考えています。

さらに、このことがこの先の法人の展開につながるべく、地域支援の新しい形を作り出していけるよう多摩市をはじめ、関係機関と真剣に話し合いの場を持てるように努力し、法人ならではの特色として打ち出していけるよう精進していく所存であります。

1 施設運営

(1) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
ひよこ組	0歳	3名	10名	
りす組	1歳	3名	16名	
うさぎ組	2歳	3名	21名	
きりん組	3・4歳	2名	26名	
ぞう組	3・4歳	2名	26名	
らいおん組	5歳	3名	27名	
ぱんだ組	一時 定期	3名	10名定員 10名定員	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
25	24	25	26	26	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	23	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

0歳児 毎月

1歳児～ 年2回（4月、10月）

歯科検診 年1回（6月）

エ 保 育

保育目標

子どもの行動に着目することにより、すでに行ってきた保育活動に対して再確認しながら見直しを行うことができるようになってきた。その実践をその年齢を担当した職員の中で終わらせることなく、共有できる大切な保育財産として積み上げられるよう「見える化」の作業を推し進めていきたい。

今年度より各クラス目標も下記に掲示。

0歳児 保育目標

- ・子どもに対して…育児マニュアルを見直し、どの職員も同じ手順で丁寧に育児行為が行えるようにする。

ひとつひとつの行為の意味をしっかりと理解する。

- ・保護者に対して…子どもについての雑談など、なんでも話しやすい雰囲気を中心掛け、いざという時に相談しやすい関係を築いていく。
- ・職員に対して…子どものことで気づいたこと、発見など小さなことでも書き留めておけるノートを作り、パートさん、保健師も含め子どもに関わる全ての大人が情報を共有し、保育に生かせるようにする。

1 歳児 保育目標

- ・子どもに対して…ABC分析や感覚統合の理論に基づいて客観的に計画を立てる。
対象となる子がいればABC分析を実践し、自分達の勉強に繋げていく。
- ・保護者に対して…それぞれが必要としている支援を理解し、保護者との信頼関係を築いていくよう努める。
- ・職員に対して…パートさんも含めた話し合いの場を持ち、密な連携を大切にする。

2 歳児 保育目標

- ・子どもに対して…個々の発達段階に合わせて、育児行為(食事排泄着脱)を丁寧に行う
それに合わせて個人計画を立て実践していく
- ・職員に対して…日々の子どもの成長をその都度話し合いチェック表(あそび・生活・トイレ)に記入し、クラスメンバー+パート職員で話し合う。
パートさんとの話し合いの時間を設ける。
- ・保護者に対して…挨拶をしっかりとる。
日々の子どもの様子を口頭や面談などを通して伝え、家庭と連携しながら子育てを援助していく。(個人計画表・発達表などを使って)

3・4 歳児 保育目標

- ・子どもに対して…5領域に基づき、感覚統合を取り入れ発達課題に即した援助をし、記録をとっていきことで、次の保育に生かしていく。
- ・保護者に対して…保護者の立場や気持ちを大切にしながら、個々の課題に保護者が気づきくことができるような働きかけをしていく。
- ・職員に対して…ぞう、きりん組で積極的に話し合いをする。幼児全体で進級に向けた話し合いの機会を作り、連携していく。記録をこまめにとっていく。
職員の力を認め合い、さらなる成長を目指す。

5 歳児保育目標

- 子どもに対して
感覚統合、SST、ABC理論、構造化、視覚認知、かがやきプログラムなど、学んで得た知識を「心・技・体」のカテゴリーに分けて整理して活用していく。また、お当番活動の見直し・食育の見直し・個人計画の見直しなど、子どもにとって何を大切にしていきたいかの「意味」を考え、スモールステップで無理なく子ども達が意欲的に参加・経験できる環境を整え、実践していく。

- 保護者に対して
「心・技・体」というわかりやすい言葉を使い、子どもの状況を総合的に考えやすいようにしていく。また、個人計画表を利用し、共通認識をして、保護者が子どもと向き合い、就学に向けての意識を持てるようにしていく。
- 職員に対して
理念や月案や週案などの計画表を基に、振り返りや活動の意図など具体的に話し合い、共有化・共通認識を大切にしていく。

ぱんだ組保育目標

定期保育、一時保育の区別を明確にして、より質の高い保育をするために、職員の共通理解を深めて子どもを支援していく。そのために、定期的な運営会議を行い、業務内容の改善、確認を行い、その都度確認された事項について掲示等により利用者にも周知し、「見える化」を推進していく。

【定期保育】

- ・子どもに対して…個人計画の書式を変え、1年間を通して子どもの発達を追うと共に、発達課題を明確にして支援していく。
子どもが落ち着いて過ごせるように、1人用サークルを設けて空間を確保する。
- ・保護者に対して…年2回の面談を実施し、保護者との連携を図る。
年間行事予定表を作成する。
- ・職員に対して…月1回の定例会議を実施し、職員同士の共通理解を深め、子どもへの働きかけや支援の方法を統一する。

【一時保育】

- ・子どもに対して…職員同士で報告や連絡など密に連携を取ることで、子どもが安心感の中で一日を過ごせるようにする。
- ・保護者に対して…笑顔で迎え、子どもの一日の様子を伝えて話すきっかけを作り、安心して話せる雰囲気を作る。
布団や室内の掃除など、衛生管理を徹底することで保護者が安心して子どもを預けられるように環境を整える。

地域事業

地域事業では、今年度も一時保育、地域向け講座を中心に行っていくが、その場限りの場当たりのなものではなく、長いビジョンで保護者の育成をテーマにしたメニュー作りに取り組みたい

地域講座・・・今年度も NOBODYS PERFECT というプログラムを（6回の連続講座）2クール行う。（保健師）

主な行事予定

4月	入園式、保護者懇談会
5月	遠足
6月	お泊まり保育
7月	プール開き、夕涼み会
9月	保護者懇談会
10月	運動会
10月	ハロウィン行事
11月	遠足
11月	収穫祭（保護者との合同）
12月	年長バイキング
1月	子ども会、
2月	保護者懇談会、新入園説明会
3月	お別れ遠足、卒園式
月例行事	誕生会

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

交通安全教育（ 4月予定 ）

非常災害時の避難訓練 毎月

引き渡し訓練の実施（ 9月 1日）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	20名
調理員	4名（栄養士含む）
保健師	1名
用務員	1名
嘱託医	1名（非常勤）
非常勤、パート	24名

イ 健康管理

健康診断 年 1回（4月）

細菌検査 年 2回

給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

保健健康委員の活動 毎月

保健師が中心となり、ストレスチェックなど職員の健康にかかわる取り組みを毎月行っていく

ウ 職員会議

定例会 毎月 1回

行事前打合せ会（随時）

研修会議 毎月 1回

リーダー会（随時）

エ 研修計画

○島田療育センター作業療法士による感覚統合研修（年3回）

○毎月園内研修会議を行う

外部研修での積み上げを職員中心にチームを組んで推し進めていきたい

○リーダー研修会議（可能性コンサルティング主催：法人研修）

オ 退職・福利厚生

○福祉医療機構退職共済制度加入

○東京都社会福祉協議会従事者共済会加入

○健康検診受診

○インフルエンザ予防接種

○職員のリフレッシュに伴う食事代等の助成（半額負担）

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

会計管理は、社会福祉サービスセンターと業務提携を結び、毎月の事務管理を協力して行う。労務管理は、多摩労務事務所と業務提携を行う。

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

桜木システムの保育システムを導入しており、出席管理など一元的に管理できるものは、省力化も含めパソコンを通してのデータ管理を行う。

保育については、ソフトを使った情報の収集を心がけ、事務の省力化と、仕事の可視化を目指していく。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

毎月初日に安全点検を主任保育士、保健師立会いの下行う。

イ 建物点検等

建物検査等は、毎年3月にアイコーポレーションに依頼を行う。

壁面の状況を勘案しながら、外壁の塗り替え時期を計画する。

ウ 空調設備改修

10年経過し空調機器に経年劣化が認められるようになってきた。今後3年間を目安に、随時機器の交換をしていく予定。今年度は3階部分を行いたい。

(3) 備品関係

ア 備品購入予定

適宜そのときの状況を鑑み、購入を検討

イ 保育用品購入予定

乳児・幼児のおもちゃを発達ごとの課題をしっかりと押さえていけるように積極的に購入する。特に、紙製、木製のものでは、痛み・損傷の度合いによりきれいなもの、子どもが扱いたいと思う観点から購入を進めていく。

ウ 固定資産物品購入予定

適宜そのときの状況を鑑み、購入を検討。なお、その際は、理事会の承認をもらって行うようにする。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回。必ず消火訓練(実地)を行う。

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回) 富士消防設備に委託

ウ 非常食糧の備蓄

○(全児童数+全職員数)×3食×(3日)分

3 地域社会との連携

4月のさくら祭りでは、会場控え室として、園舎を提供する。

10月ハロウィンでは、多摩センター地区連絡協議会と連携を図り、年長児を中心に行事に参加する。

児童・職員健康管理予定表

	児 童	予算額	職 員	予算額
4月				
5月			定期健康診断	(@11000×27) 297,000
6月	歯 科 検 診	44,444	〇-157検査(全職員)	(@300*40) 12,000
7月	プ ー ル 指 導			
8月				
9月			救護法指導受講	40,000
10月	年長児就学時検診		〇-157検査(全職員)	(@300*40) 12,000
11月			インフルエンザ予防接種	(@3000*50/2) 75,000
12月				
1月				
2月				
3月				
定期	(毎 月) 布 団 乾 燥 身 長 体 重 測 定 嘱 託 医 来 診	350,000 0 399,996	(毎 月) 給食及び調乳担当者検便	(@300×10×12) 36,000
計		794,440		472,000

保育関係予算(行事費)		
4月	入園を祝う会 父母懇談会	50,000
5月	こどもの日 交通公園見学 遠足	13,000 電車代 10,000
6月	お泊り会 稲植え	夕焼け小焼けの里 300,000 5000
7月	プラネタリウム見学 プール開き 七夕 夕涼み会	大人料金(4名分) 2,000
9月	防災引渡訓練 父母懇談会	
10月	幼児組運動会 ハロウィン 稲刈り 保育参観(12月まで)	100,000 5,000
11月	遠足 芋ほり 音楽会	電車代 30,000 5,000 100,000
12月	餅つき 観劇会	10,000 120,000
1月	新年子ども会 子ども会	200,000
2月	節分 一日体験入園	
3月	ひなまつり 父母懇談会 卒園を祝う会	50,000
	合計	1,000,000

定例行事

誕生会・身体測定・健康診断・避難訓練・布団乾燥・造形指導・お茶の稽古(年長)